

## 第1章 第4次基本計画策定にあたって

### 1-1 第4次基本計画の概要

### 1-2 計画策定の背景

### 1-3 持続可能なまちづくりの推進に向けた基本的視点

### 1-4 重点プロジェクト

## 第2章 第4次基本計画 施策別計画

### 施策体系

### 施策の見方

#### 基本方向 01 安心・安全でいきいきとした暮らしづくり

基本政策 01 保健・医療の充実

基本政策 02 社会福祉の充実

基本政策 03 防災・消防体制の充実

基本政策 04 生活安全の充実

#### 基本方向 02 子どもを育む環境づくり

基本政策 01 子育て支援の充実

基本政策 02 学校教育の充実

基本政策 03 青少年の健全育成

#### 基本方向 03 まちを支える人づくり

基本政策 01 社会教育の推進

基本政策 02 スポーツ・レクリエーションの振興

基本政策 03 市民文化の充実

基本政策 04 人権擁護・男女共同参画の推進

#### 基本方向 04 まちのにぎわい・活力づくり

基本政策 01 企業誘致の推進

基本政策 02 産業の振興

基本政策 03 観光の振興

基本政策 04 広域交流・国際交流の推進

#### 基本方向 05 まちの快適・うるおい空間づくり

基本政策 01 土地利用の適正化

基本政策 02 都市環境の充実

基本政策 03 交通環境の充実

基本政策 04 生活環境の充実

基本政策 05 自然環境の保護・環境の保全

#### 構想の実現に向けて

基本政策 01 市民参加の推進・情報発信力の強化

基本政策 02 協働の推進

基本政策 03 質の高い行財政運営の推進

基本政策 04 広域行政の推進

基本政策 05 ICT 活用の推進

## 第3章 第4期まち・ひと・しごと創生総合戦略

### 3-1 総合戦略の策定にあたって

### 3-2 まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 資料編

### 1 木更津市基本構想

### 2 木更津市総合計画第4次基本計画及び第4期木更津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針

### 3 策定の経過

### 4 木更津市総合計画審議会

### 5 木更津市総合計画策定会議

### 6 市民アンケート概要

### 7 タウンミーティングの概要

### 8 木更津市のすがた

### 9 用語解説

# 第1章

## 第4次基本計画の 策定にあたって

- 1-1 第4次基本計画の概要
- 1-2 計画策定の背景
- 1-3 持続可能なまちづくりの推進に向けた基本的視点
- 1-4 重点プロジェクト

## 1—1 第4次基本計画の概要

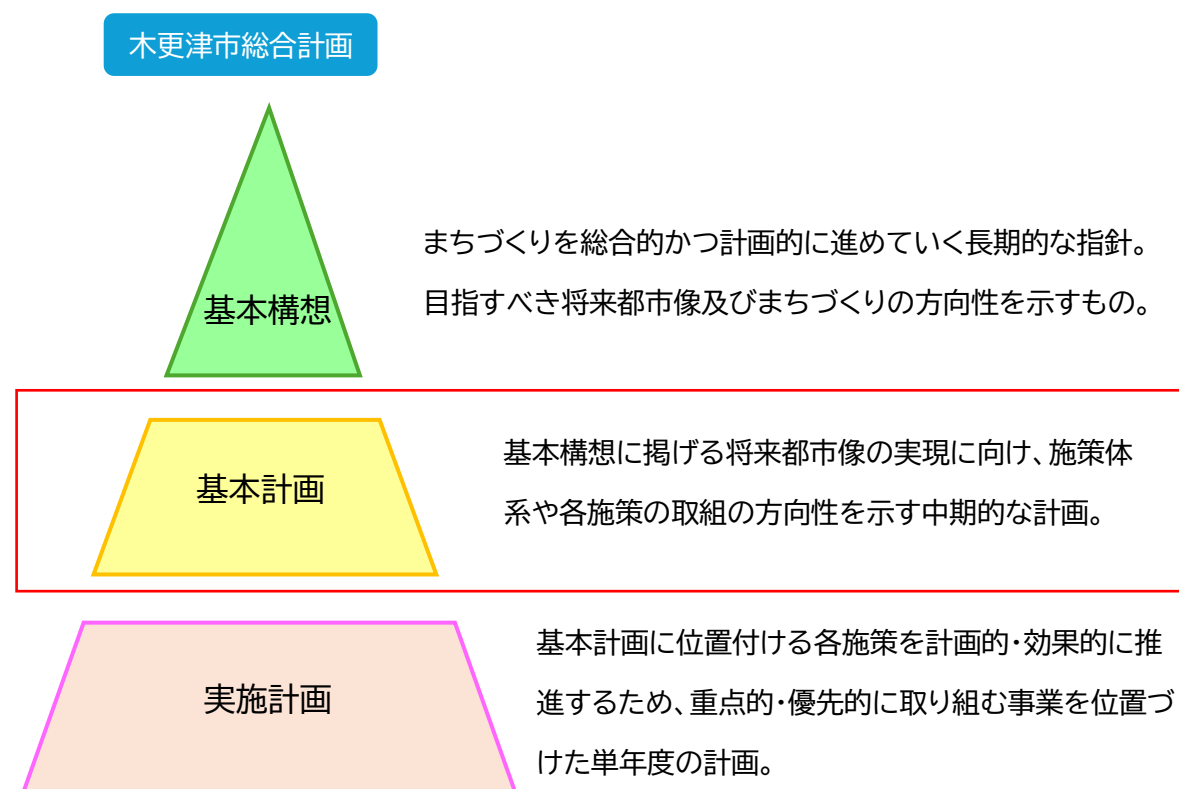
### (1) 策定趣旨と位置づけ

本市は、木更津市基本構想に掲げる将来都市像「魅力あふれる 創造都市 きさらづ～東京湾岸の人とまちを結ぶ 躍動するまち～」の実現に向けて、令和5年(2023年)に第3次基本計画を策定し、市民のチャレンジが生まれ、人・もの・文化が循環する自立した地域づくりを推進してきました。

この間、人口減少や超高齢社会の進行、地球規模で進む気候変動への対応、デジタル化の急速な進展といった社会構造の大きな変化が加速しています。

こうした状況を踏まえ、これまでの取組の成果を「まち全体をめぐる力」へ高め、「次の木更津」を見据えながら、持続可能で選ばれるまちを実現することが必要です。

本市は、市民や多様な主体、行政が共有できるこれからのまちづくりの指針として、令和9年度(2027年度)を始期とする第4次基本計画(以下、「基本計画」という。)を策定します。



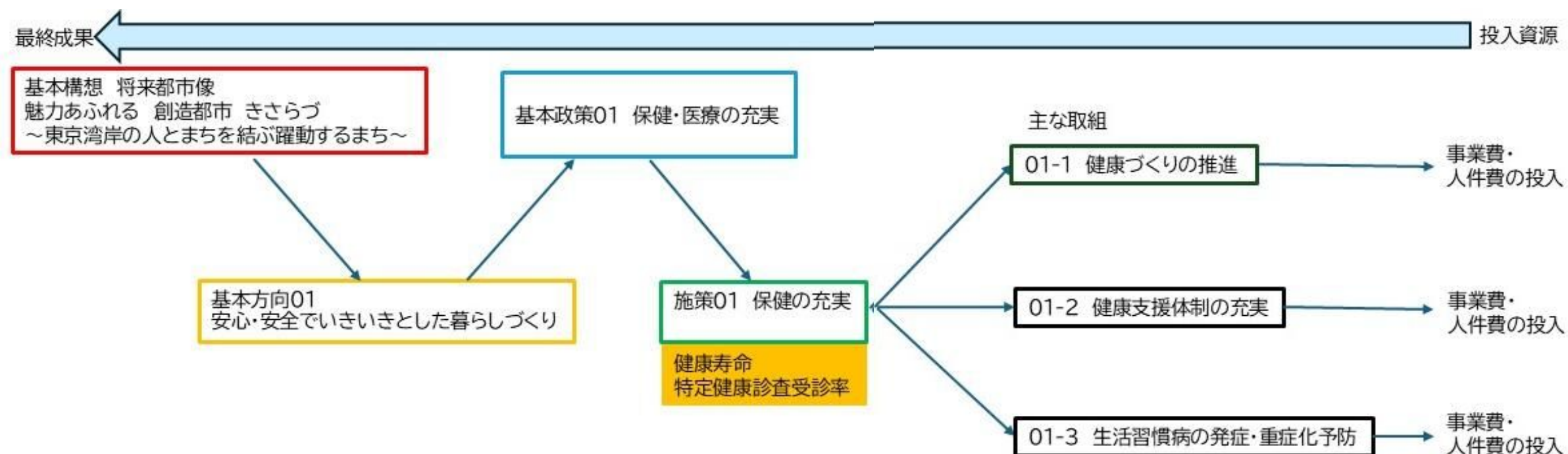
## (2) ロジックモデルを採用した計画づくり

基本構想に位置付ける「魅力あふれる 創造都市 しさらづ」の実現に向け、施策の実効性をさらに高めるため、ロジックモデルにより事業目的の明確化や事業効果の検証を行います。

ロジックモデル例:基本方向 01 安心・安全でいきいきとした暮らしづくり

基本政策 01 保健・医療の充実

施策 01 保健の充実



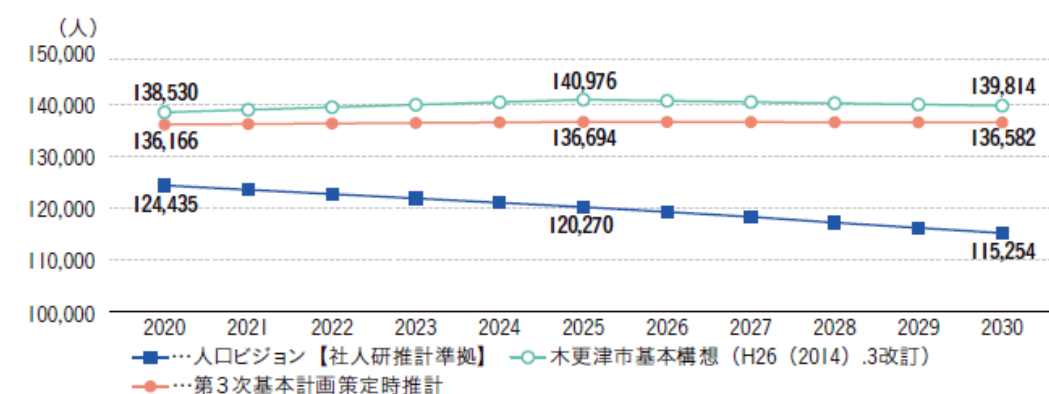
### (3) 人口の現状と今後の見込み

●本市の人口動態は、社会動態では転入超過が継続しているものの鈍化傾向にあり、自然動態によるマイナス超過(出生<死亡)等の影響により、令和7年は19年ぶりに減少となりました。

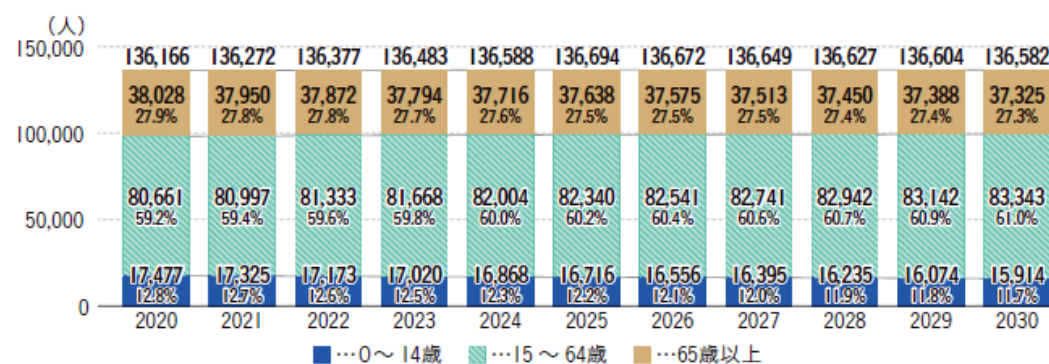
●一方で、金田地区等への子育て世代の流入や増加している外国人の転入が今後も見込まれる中、これまでのトレンドをしっかりと捉えた移住・定住策を講じることで、木更津市基本構想における将来人口14万人(西暦2030年)の見込みを維持します。



■基本構想の目標年次である令和12年(2030年)までの各年の人口推計



■2030年までの年齢3区分別人口の見通し



### (4) 計画の進行管理

第4次基本計画及び実施計画については、「PDCA サイクル」に基づく進行管理を実施し、各施策・事業等の取組内容について検証・見直しを行うことで、計画の実効性を高め、効果的・効率的に推進します。

施策については、当該年度終了後に事後評価を行うことで、「施策目標の実現に関する指標」の達成度合を把握し、各取組の進捗を踏まえ、必要に応じた見直し等を行うことで、施策の推進を図ります。また、取組結果を速やかに公表します。

事業については、新規事業・継続事業ともに、改めて、当初予算編成前に現状の把握と課題の整理をした上で、成果を検証し、施策の推進に向け実施計画への位置づけや見直しを総合的に判断するとともに、次年度の「市政運営の基本的な考え方」や「予算」等に反映させます。



## 1—2 計画策定の背景

### (1) 国内の社会情勢の変化

これからのまちづくりを考える上で、本市に影響を及ぼすと考えられる全国的な社会の潮流について整理します。

#### 人口減少・少子高齢化の進行

- 生産年齢人口の減少が加速し、地域経済や社会保障制度の維持に全国的に深刻な影響を及ぼしている。
- 超高齢社会の進展は地域活力の低下を招き、介護・医療サービス提供体制の構築が喫緊の課題。
- 国の地方創生戦略のもと、各自治体で人口減少に歯止めをかけ持続可能な社会の実現を目指している。

2056年日本の人口

1億人を割り込む



行政手続き

オンライン申請利用率

30%以下



#### デジタル技術の革新による時代の変化

- 生成 AI や IoT 等の革新的な技術導入が進み、社会全体の DX 化推進が国により強く求められている。
- 行政サービスの効率化や市民の利便性向上のため、デジタル技術の積極的な活用が不可欠である。

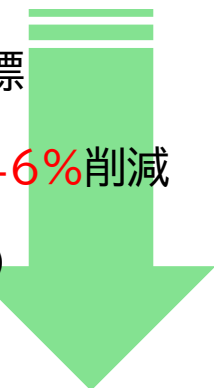
#### 地球環境問題の深刻化

- 脱炭素社会の実現に向けた国際的・国内的な動きが加速し、持続可能な社会への転換が喫緊の課題。
- 気候変動による異常気象が常態化し、地域における再生可能エネルギー導入や環境保全活動が重要。

2030 年度目標

温室効果ガス 46%削減

(2013年度比)



#### 災害の激甚化に対する危機感の高まり

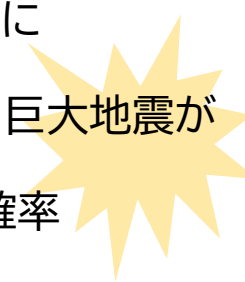
- 気候変動の影響により自然災害が激甚化・頻発化し、国土強靭化計画に基づく対策が急務となっている。
- 地域住民の生命と財産を守るため、防災・減災対策の強化と自助共助公助の連携が不可欠である。
- 国の防災基本計画に基づき、災害リスクへの適応とレジリエンス向上に向けた取り組みが求められる。

30年以内に

南海トラフ巨大地震が

発生する確率

70~80%



#### 地域経済・産業構造の変化

- グローバル経済の進展とデジタル化を背景に、地域産業の変革と新たな価値創出が国全体で求められている。
- 少子高齢化に伴う労働力不足は深刻化しており、地域における働き方改革や人材確保が喫緊の課題。
- 観光振興や地場産業の振興により地域内経済循環の強化が求められる。

55歳以上就業者割合

24.5%

(日本の産業の基盤である製造業や建設業)



#### 協働のまちづくりの必要性の高まり

- 多様化する地域課題解決には行政だけでなく、市民・企業・NPO 等との連携協働が国策として推進されている。
- 地域コミュニティの活性化と住民の主体的な参画を促すことで、持続可能な地域社会を形成する。
- 「新しい公共」の概念のもと、多様な主体が役割を分担し、地域資源を最大限に活用する。

2050年

単身世帯が占める割合

44.3%



(2) 木更津市における課題

市民アンケートによる施策の評価結果

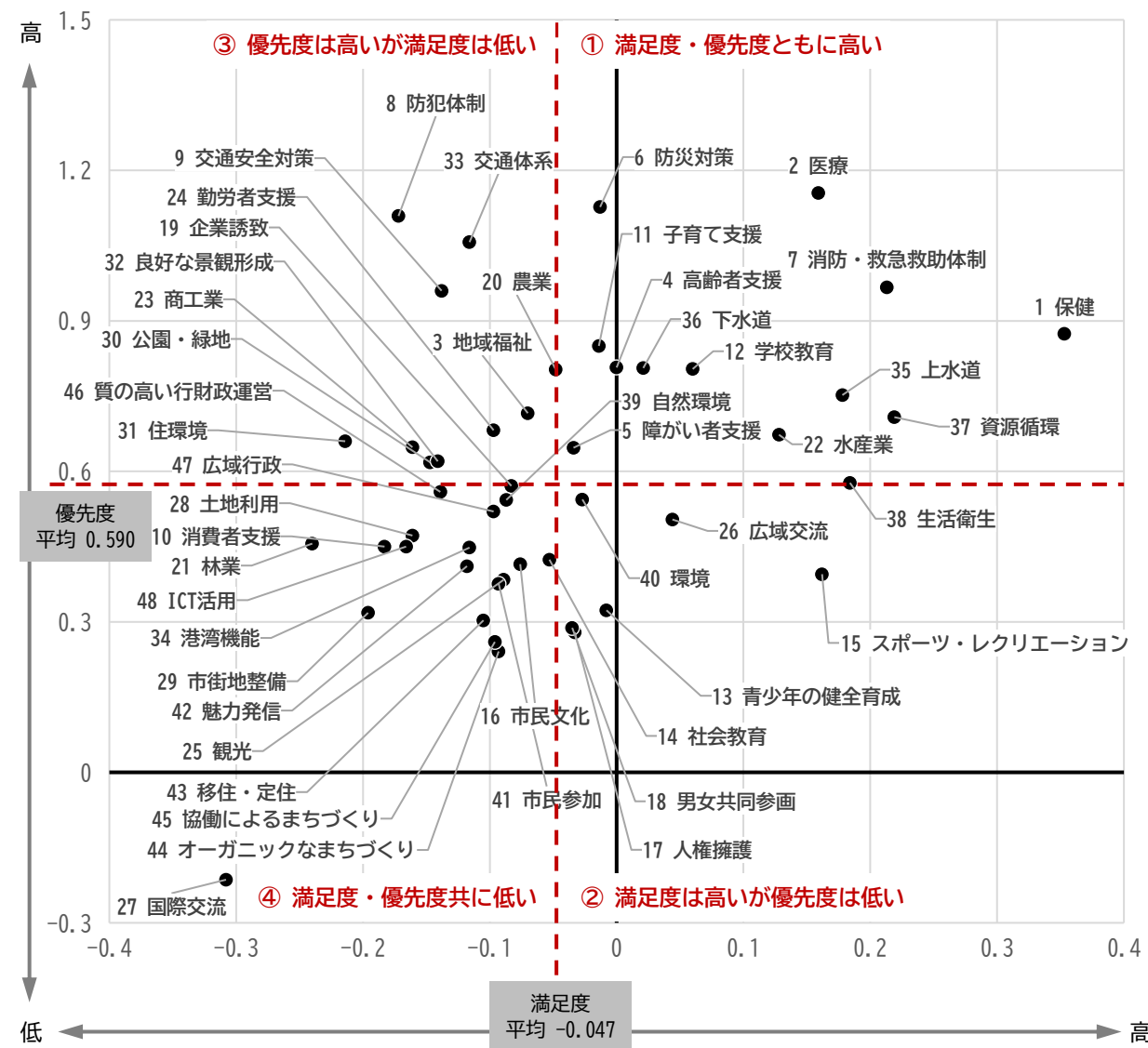
市が進めている施策の満足度や要望など、市民の意識を把握し市政へ反映するため、令和7年(2025年)9月に市民アンケートを実施しました。

**調査対象** 木更津市に居住する満 18 歳以上の市民 2,000 人

**抽出方法** 住民基本台帳に基づく無作為抽出

**有効回収数** 899 人(うち web 回答 358 人) (有効回収率 45.0%)

●市民アンケートによる48施策評価(満足度・優先度)結果



課題分析と今後のまちづくりの方向性

市民アンケート結果から、第3次基本計画に掲げる48施策すべての満足度及び優先度を数値化し、それらの平均値を基準に以下の4つに分類しました。

| 分類 | 満足度 | 優先度 | 結果(項目数) |
|----|-----|-----|---------|
| ①  | 高   | 高   | 12項目    |
| ②  | 高   | 低   | 7項目     |
| ③  | 低   | 低   | 10項目    |
| ④  | 低   | 高   | 19項目    |

【まとめ】

「評価結果を受けて課題と方向性をどのように考えるか」

「どのように市民の声を施策に反映するか」の記述

※「防犯体制の充実」、「交通体系の充実」、「交通安全対策の充実」は特に今後の優先度が高いものの満足度は低い

※市民の声は各施策ページに記載、取組に反映

## 1—3 持続可能なまちづくりの 推進に向けた基本的視点

### (1) オーガニックなまちづくりの推進

本市を次の世代に責任をもって引き継いでいくためには、本市が持つ強みを活かし、魅力を高め、行政だけでなく、ふるさと木更津への思いを共有する市民や、団体、企業などが力を合わせ、まちづくりに取り組むことが重要です。

そこで本市は、地域社会を構成する多様な主体が力を結集し、豊かな自然とともに発展する持続可能なまちづくりを進めるための旗印として、「オーガニック」という言葉を掲げ、「オーガニックなまちづくり」として様々な取組を行ってきました。

第4次基本計画では、「施策別計画」の中で、市民や事業者等が取り組めるアクションを示すことにより地域一体となったまちづくりを推進します。

#### 「オーガニックなまちづくり」の基本理念

- 基本理念 1 地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする人を育むこと
- 基本理念 2 自然と共に発展する持続可能なまちの基盤を整備すること
- 基本理念 3 多様なあり方を認め合い、支え合う、自立した地域社会の仕組みを構築すること

#### 「オーガニック」の3つの概念と定義

- 自立** 地域を構成する多様な主体が、それぞれのできることを自ら考え、行動すること
- 循環** 人の知恵、地域産物、エネルギーなど様々な資源が地域内をめぐること
- 共生** 自然とともに生きることや、性別や立場などの違いをお互いに認め合い、考え合い、生きていくこと

#### ●「オーガニック」とは(定義)

持続可能な未来を創るため、地域、社会、環境等に配慮し、主体的に行動しようとする考え方



### 木更津モデル

#### オーガニックなまちづくり

× きさらづ地域循環共生圏(ローカル SDGs)

× ウェルビーイング

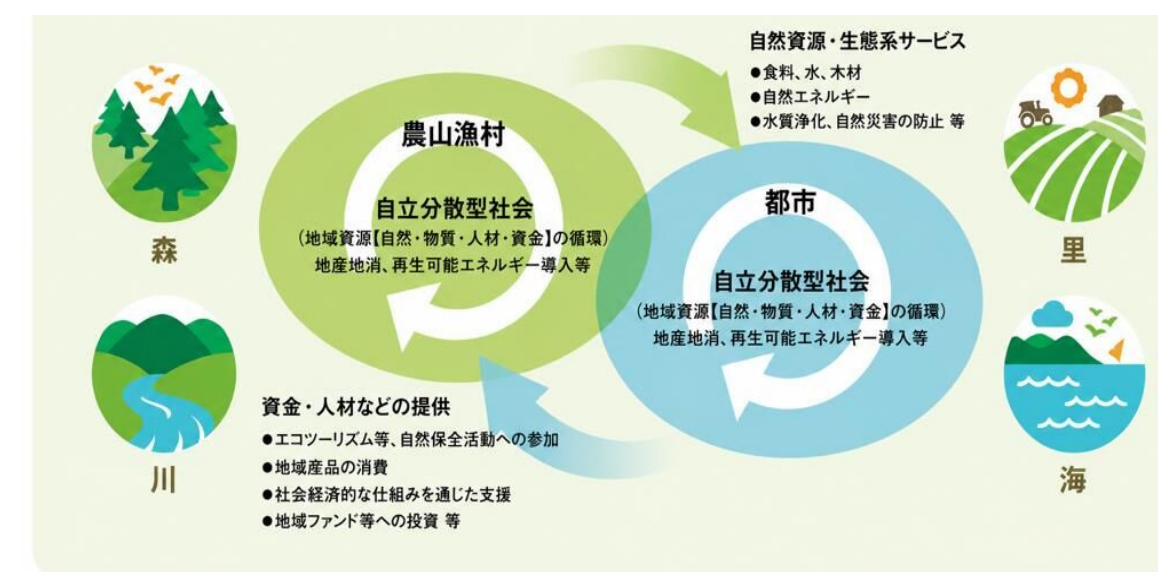
本市では「オーガニックなまちづくり」の理念を発展させ、里山・里海・エネルギーなどの資源を地域内で回す仕組み「きさらづ地域循環共生圏」を創造することにより、市民のウェルビーイング(心身の豊かさや幸福)向上を目指しています。

#### きさらづ地域循環共生圏

「地域循環共生圏」とは、地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることをめざす考え方で、「ローカル SDGs」とも呼ばれています。

本市では、「オーガニックなまちづくり」の一環として、地域の環境・経済・社会を統合的に向上させ、持続可能な自立・分散型の地域づくりを目指します。

SDGs: すべての国、すべてのステークホルダーが参画する世界全体の目標  
ローカル SDGs: それを地域(ローカル)の課題に合わせて落とし込んだ実践版



## (2) その他の視点

### DX を取り入れた行政サービスの変革

- 本市では、デジタル化を市民生活の利便性の向上につなげるため、令和4年(2022年)3月に「木更津市 DX 推進計画」を策定しました。  
同計画において、本市における DX を「変革(イノベーション)をデジタルの側面から実現するためのあらゆる取組」と定義し、多様な地域資源を磨き、人がつながり支え合うまちづくりを進めるため、分野横断的な変革をデジタルの徹底的な活用により実現する方針を示しています。
- DX 導入による市民サービスの質の向上及び業務効率化を基本計画の施策全般に共通する、次代へ向けた重要な視点として捉え、各施策に取り組みます。

#### 取組例

- 健康アプリを活用した自己健康管理を促進する環境整備
- 対面とアーカイブ配信のハイブリッド型講座の開催

### ゼロカーボンシティの実現に向けた取組

- 我が国は、令和2年(2020年)10月に、令和32年(2050年)までにカーボンニュートラルをめざすことを宣言しました。これを受け、経済産業省では、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定し、産業政策を「経済と環境の好循環」の創出につなげることをめざしています。
- 本市においては、令和3年(2021年)2月に、ゼロカーボンシティ宣言をしました。「気候危機」に市として責任をもって対策を講じるとともに、市民一人ひとりがカーボンニュートラルを意識した行動に取り組む必要があることを踏まえ、ゼロカーボンシティの実現に向けた取組をまちづくりの視点として捉えます。

#### 取組例

- みどりの食料支援システム戦略(有機農業)の推進
- 公共施設における再生可能エネルギーの導入、省エネルギー化

## 1-4 重点プロジェクト

第4次基本計画における重点プロジェクトは、木更津市基本構想に掲げる将来都市像「魅力あふれる 創造都市 きさらづ～東京湾岸の人とまちを結ぶ 躍動するまち～」の具現化のため、これまでの実績も踏まえて今後4年間で特に力を入れて推進する取組です。

単独の施策の推進だけでは解決することが難しい課題に対し、各施策を連携させながら、全庁を挙げて分野横断的に取り組んでいきます。

### きさらづ地域循環共生圏創造プロジェクト



## 中心市街地活性化プロジェクト

